

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100020		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム福富 1F		
所在地	岐阜市福富永田1976番地1		
自己評価作成日	令和5年8月30日	評価結果市町村受理日	令和6年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100020-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・調理スタッフ2名が在籍しており、毎日おいしい手作り料理を食べる事が出来る。また季節に合わせた行事食や毎月旬な食材を使って、特別メニューを作って頂ける。
 ・自立支援介護に力を入れている。水分量を上げる事で脳の活性化を図り、食事、運動、排泄のサイクルを円滑にする。その効果として減薬やBPSD(周辺症状)の緩和などの効果が得られている。
 ・その他にも近所の方との交流もあり、一緒にでかけたり、おすそ分けを頂いたりしている。
 ・福祉避難所の指定をもらい、今後地域の方々のお役に立てるように努めていく。
 ・ブログの更新を頻回にしており、好評頂いている。
 ・Well-beingの取り組みを岐阜市、サントリーと共同で行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域とホームとの繋がりのきつかけ作りを柔軟な視点で捉え、実践している。学校からの依頼で始まった高校生への訪問は恒例行事となり、利用者にとっては癒しや楽しみの機会となっている。生徒には、施設や介護の仕組みを知ってもらう機会になると考えている。
 市とサントリーとの共同のWell-beingの取り組みは、FC岐阜(サッカーチーム)を応援するという企画で、新たな興味や関心として利用者への良い刺激となっている。ブログには、ホームの仕組みを知ってもらいたい、利用者の様子を家族に伝えたいとの思いが込められている。コロナ禍によって地域や家族との交流の機会が減ってはいるが、利用者とホーム双方が、地域の一員として社会に認められるために、感染状況に配慮しつつ「参加すること、訪問にはウェルカム」を方針としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の浸透を図る為、朝礼、夕礼時に唱和している。また理念ブックを全職員に配布し、周知している。	理念を唱和し、朝・夕礼の際には一日の目標を立て、業務を開始している。ホーム独自の理念を作ることや、職員が同じように理解し共有ができる研修の場を持つことで、職場としての一体感を醸成したいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会お全面解禁や聖マリア高等学校との交流、地域行事の積極的な参加を行っている。また外出支援も力を入れており、喫茶外出は近隣の居宅が経営しているところへ出かけ交流を図っている。	回覧板で地域行事の情報を得て、参加可能なものについては、積極的に参加するよう努めている。地域からホームへの協力要請にも積極的に応じている。近隣の喫茶店に出向き、地域の人と日常的な交流をしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を再開。これを機に地域包括2か所、居宅2か所にも声をかけている。地域の方やご家族様など広くお声掛けしている。	対面での運営推進会議を再開した。平日開催となるため、家族が参加できない時には、事前に意見を聞くようにしている。複数の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に広く声掛けをして、ホームのことを知ってもらう活動に力を入れている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告、運営推進、介護保険、防災事業など必要なことはすぐに報告、連絡、相談している。	入居後に生活保護の申請を支援した事例があり、市役所とは生活福祉課や介護保険課、他にも必要に応じ連携をとっている。市とサントリーとの協働によるwell-beingの取組みへの参加など、積極的に地域福祉向上に努めている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のユニット会議、ホーム内研修や不適切ケアチェックシートを基に虐待、不適切ケアをしないように日頃から自身のケアについて振り返る機会を作っている。	身体拘束廃止に向けた支援について、法人全体で取り組んでいる。ユニット会議や普段の支援の中で気になることを出し合って情報共有することにより、職員の意識が高まってきた。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議を利用し、必ず研修として行っている。また3ヶ月に1回は身体拘束廃止委員から注意喚起を行い、虐待防止に努めている。	「不適切ケアチェックシート」を、ランダムに選ばれた職員が記入し、その結果を毎月の虐待防止委員会で共有し、分析・対応策を検討している。参加型の事例検討の研修では、職員自身が具体的に考える機会となり、不適切ケアの改善に繋がっている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議を利用し学ぶ機会を設けている。また後見人が必要なご入居者様の支援も行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は全項目について説明を行っている。また途中で分からない部分についてないか確認を行っている。また改定の際は電話での説明を行ったあとに説明書と同意書の送付を行うようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者様、家族様からの要望を聞く体制を取っており必要に応じて運営に反映させている。面会の少ないご家族へは電話連絡にて要望をお聞きしている。	家族からの「もっと利用者の細かな様子を知りたい」との意見を基に、ブログの発信や毎月の便りの充実を図った。ブログに関しては、遠方の家族にも好評である。法人で行っている満足度調査での結果も真摯に受け止め、改善に努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から要望や意見を聞く体制を取っており、必要に応じて運営に反映させている。	ユニット会議や全体会議において意見や要望を聞く体制はあるものの、職員から意見が表出されることは少ない。法人で職員アンケートを実施しているが、全体の中でも職場としての評価は高くなく、働きやすさや働き甲斐の向上に向けて、今後の改善が課題となっている。	ホームの将来に向けてのチーム作りが直近の課題となっているため、ホーム独自の理念を作るなど、職員の一体化を図る取組みを行い、希望ある職場づくりを期待したい。
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス制度をとっており、実力に応じて給与水準が上がるようになっている。また個々に頑張っている事がある際は、直接声をかけるように意識している。	職員の高齢化による体力の変化や家族の事情などを考慮し、勤務のシフトを調整している。育児休業明けの職員がいるため、復帰後には、育児と仕事の両立をしながら働ける職場環境を整えるよう準備している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ホーム内研修の実施をしており、研修の機会を持っている。またキャリアパス制度によって評価しており、現状の力量と今後目指すべき姿などを共有している。	研修を通して人材育成を行っており、様々な学びの機会を提供している。実務者研修の参加や介護福祉士資格の取得を、積極的に支援している。有資格者が多いため、資格取得への刺激になっている。キャリアパスによる昇給、昇格の明確な仕組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者はコロナ対応を続けていることが多く、なかなか交流が難しい。勉強会や講習などは管理者として参加し、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様にも役割を持って頂き、一方的な関係とならないようにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中から思いの把握、叶えられることから1つずつ実現に向けて努力をしている。またご家族様への再アセスメントなども行っている。	言葉にならない思いや希望は、日常の関りの中で表情を見たり、これまでの経験を手掛かりにして汲み取っている。「食べること」や「外出すること」の要望が多く、それを1つでも実現することで生活の楽しみへとつなげている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の課題をユニット会議で話し合い、ご本人や家族の意向も取り入れながら介護計画作成し、経過観察をしています。	面会制限があるために、電話や文書で家族の希望を聞き取り、利用者の意向や職員の意見も介護計画に反映させている。個別の外出支援に向けて、ADLの維持・向上ができるよう、生活機能訓練も取り入れている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	都度ノータイス(電子記録)に記載し、タグ付けをすることで分かりやすく記録している。また朝礼、夕礼の申し送りに加え、電子記録の为いつでも誰でも記録を確認できるようになっている。	食事や排泄、入浴、バイタルなどの他にも「一言コメント」として日常の出来事を記録している。訪問診療時には、口頭で様子を伝えると共に、タブレットに記録したバイタルや食事量などの情報を医師に提示し、数値化された内容も伝えている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の様子が必要なニーズをくみ取り、あたらしいアプローチで柔軟なサービスの多機能化に取り組んでいます。	利用者がこれまで習慣としてきた喫茶店でのモーニングを継続する取組みや、FC岐阜(サッカーチーム)の応援団として皆でテレビ観戦して、一体感を味わっている。利用者の状況やその時々聞かれる要望に応じ、できる限り柔軟な対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の高校との交流や近所の方との外出も行っている。近所でホテルが舞う為、夜間に出かける機会を設けている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とはホームを仲介役とし、ご家族様の意向を伝え医療提供している。主治医もご家族様の意向を尊重してくれている。	利用契約時に、かかりつけ医を選択できることを伝えている。現在はホームの協力医を主治医としている利用者が多い。外来受診は家族の協力を得て対応し、その都度情報共有している。かかりつけ薬局もあり、薬の不明点などもその都度確認している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月各病院の相談員さんにご挨拶に伺っている。また入院発生時は最低でも1週間に1回は連絡をし、状態確認を行っている。早期退院ができるように心掛けている。	入院した場合はホーム長が中心となり、随時病院の相談員等と連絡を取り、退院後の受け入れが円滑にできるようにしている。認知症状の悪化が懸念される場合には、治療終了後早期に退院できるよう、医療機関と連携して対応をしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況を見極め、ご家族様へ早い段階で情報共有し、今後の事を考え事業所としてできる事や出来ない事を説明している。また、他のサービスの利用も案内している。	住み慣れたホームで看取りを希望する家族が多く、医療行為の必要がない状態であれば、可能な範囲で支援している。定期的な研修に加え、看取り介護が対象の利用者がいる時に都度の研修を行い、より良い最期を迎えてもらえる体制を整えている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な社内研修にて救急対応の勉強会を開いている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2階の消防避難訓練を実施。またその際に水害、地震についての注意喚起も行っている。避難所まで遠い為、岐阜市と協議させて頂き、ホームを福祉避難所の指定を頂くことになった。	河川氾濫のリスクが高く、高齢化が進んでいる地域であるため、地域事情も踏まえて福祉避難所としての指定を受けている。定期的な訓練を実施し、備蓄品の確認も行い、災害発生時に適切に対応できるよう備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する研修は定期的に行っているが意図せずプライバシーを損ねるような状況が時々見られる為その場で指導を行っている。	利用者一人ひとりに、それぞれ違う人格があるということ意識して対応している。同性介助には可能な限り対応している。利用者の状態に応じ、安全確保のための見守りを中心として、過剰介護とならないよう配慮している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自分で選択できるような声かけを行って日常の意思決定を支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合になってしまっていることが時々見られる為、その人らしい一日が自然な形で過ごせるような過ごし方を考えている		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月調理スタッフが季節や地方料理を考えて提供してくれている。ご入居者様も楽しみにして下さっている。また個別に嗜好品を購入している。机拭き、お盆・食器拭きなども手伝って頂いている。	法人内の管理栄養士が栄養バランスの取れた献立を作り、それに沿って職員が調理して提供している。山菜の天ぷらや朴葉寿司など、地元の旬の食材を取り入れたり、利用者のリクエストにも応えながら、臨機応変に献立をアレンジしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	血液検査の結果、体重等色々と加味をし水分量の増加、プロテイン摂取、鉄卵の活用、チーズ・卵などのタンパク質追加などを行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアの介助を行っている。また定期的に歯科衛生士による口腔ケアも実施している。	利用者の能力に応じ、毎食後口腔ケアが確実にできるように声掛けや介助を行い、口腔内の健康管理を行っている。希望があれば、歯科衛生士による口腔ケアが受けられる体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に排泄状況は違う為、排泄のパターン等を情報共有している。自立の方はできるだけ長く自立で排泄できるように支援している。また失禁の方に有効な体操があり、実施している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤の使用や頭皮マッサージを行うと大変喜ばれる方がみえる為実施中である。臨機応変に入浴日の変更もしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるような声かけや、眠れない時はリビングでお話を傾聴し支援している。また不眠傾向の方に対して夕方に足浴を実施している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はユニット間で共有できるようにユニットで管理している。緊急で処方されたお薬については共有が遅れてしまう事がある為申し送りノート、朝礼夕礼時口頭でも申し送りを徹底している。	薬の管理は、薬箱へセットする時と服薬前に、名前と日付とを複数の職員で確認し、誤薬防止のチェックを徹底している。薬剤師との連携も行っており、薬の影響と思われる体調変化など、不安な時にはすぐに確認している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみの創出の為、外出支援、レク等に力を入れている。また季節の食材を取りに行ったり、お花をいけたりしている。	食えることや外出することに興味を示す利用者が多い。「食べたい」との希望には、その日に準備するなど、叶えられることは直ぐに対応し、楽しみを奪わないよう努めている。家族を招いた花火大会を実施するなど、面会以外にも交流の場を持っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	暑い日が続いているため、散歩できる時間は限られているが外に出る機会を設けている。その他ほたるの観賞や紅葉、桜、外でごはん、作品展、喫茶店など外へ出る機会を都度創出している。	花見やホタルを見に行くなどの計画を立て、外出支援を行っている。普段ふらりとご近所さんの自宅に出掛けて猫と一緒に遊んだり、神社まで散歩したりと、日常的に屋外に出て気分転換する機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品の居室内持ち込みは原則としてお断りしている。ホームや個別の買い物の際はご自身でお金を把握できる方についてはお願いしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に時間帯や頻度も確認しながら、なるべく望まれた時に連絡ができるように支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した空間を作るようにしている。また季節を感じる事の出来る花などをホームのあちこちに飾っている。	リビングでゆったりとくつろいだり、職員と一緒におしゃべりを楽しんだり、利用者それぞれが過ごしやすい空間づくりをしている。時には、FC岐阜の試合のテレビ中継を皆で観戦し、応援することもある。毎日定期的に室温や湿度などを確認している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士のトラブルも度々見られる為状況に応じて座席の変更も随時行っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込む事によって安心した居住環境で過ごす事が出来る。また不要なものなどもご家族様へ相談し引き取って頂くかこちらで処分させて頂いている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の出来る事を必要な設備に関しては職員と相談し、安心して過ごせるように検討している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100020		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム福富 2F		
所在地	岐阜市福富永田1976番地1		
自己評価作成日	令和5年8月30日	評価結果市町村受理日	令和6年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100020-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・調理スタッフ2名が在籍しており、毎日おいしい手作り料理を食べる事が出来る。また季節に合わせた行事食や毎月旬な食材を使って、特別メニューを作って頂ける。
 ・自立支援介護に力を入れている。水分量を上げる事で脳の活性化を図り、食事、運動、排泄のサイクルを円滑にする。その効果として減薬やBPSD(周辺症状)の緩和などの効果が得られている。
 ・その他にも近所の方との交流もあり、一緒にでかけたり、おすそ分けを頂いたりしている。
 ・福祉避難所の指定をもらい、今後地域の方々のお役に立てるように努めていく。
 ・ブログの更新を頻回にしており、好評頂いている。
 ・Well-beingの取り組みを岐阜市、サントリーと共同で行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の浸透を図る為、朝礼、夕礼時に唱和している。また理念ブックを全職員に配布し、周知している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会お全面解禁や聖マリア高等学校との交流、地域行事の積極的な参加を行っている。また外出支援も力を入れており、喫茶外出は近隣の居宅が経営しているところへ出かけ交流を図っている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を再開。これを機に地域包括2か所、居宅2か所にも声をかけている。地域の方やご家族様など広くお声掛けしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告、運営推進、介護保険、防災事業など必要なことはすぐに報告、連絡、相談している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のユニット会議、ホーム内研修や不適切ケアチェックシートを基に虐待、不適切ケアをしないように日頃から自身のケアについて振り返る機会を作っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議を利用し、必ず研修として行っている。また3ヶ月に1回は身体拘束廃止委員から注意喚起を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議を利用し学ぶ機会を設けている。また後見人が必要なご入居者様の支援も行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は全項目について説明を行っている。また途中で分からない部分についてないか確認を行っている。また改定の際は電話での説明を行ったあとに説明書と同意書の送付を行うようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者様、家族様からの要望を聞く体制を取っており必要に応じて運営に反映させている。面会の少ないご家族へは電話連絡にて要望をお聞きしている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から要望や意見を聞く体制を取っており、必要に応じて運営に反映させている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス制度をとっており、実力に応じて給与水準が上がるようになっている。また個々に頑張っている事がある際は、直接声をかけるように意識している。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ホーム内研修の実施をしており、研修の機会を持っている。またキャリアパス制度によって評価しており、現状の力量と今後目指すべき姿などを共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者はコロナ対応を続けていることが多く、なかなか交流が難しい。勉強会や講習などは管理者として参加し、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様にも役割を持って頂き、一方的な関係とならないようにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中から思いの把握、叶えられることから1つずつ実現に向けて努力をしている。またご家族様への再アセスメントなども行っている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の課題をユニット会議で話し合い、ご本人や家族の意向も取り入れながら介護計画作成し、経過観察をしています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	都度ノータイス(電子記録)に記載し、タグ付けをすることで分かりやすく記録している。また朝礼、夕礼の申し送りに加え、電子記録の為いつでも誰でも記録を確認できるようになっている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の様子が必要なニーズをくみ取り、あたらしいアプローチで柔軟なサービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の高校との交流や近所の方との外出も行っている。近所でホテルが舞う為、夜間に出かける機会を設けている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とはホームを仲介役とし、ご家族様の意向を伝え医療提供している。主治医もご家族様の意向を尊重してくれている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月各病院の相談員さんにご挨拶に伺っている。また入院発生時は最低でも1週間に1回は連絡をし、状態確認を行っている。早期退院ができるように心掛けている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況を見極め、ご家族様へ早い段階で情報共有し、今後の事を考え事業所としてできる事や出来ない事を説明している。また、他のサービスの利用も案内している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な社内研修にて救急対応の勉強会を開いている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2階の消防避難訓練を実施。またその際に水害、地震についての注意喚起も行っている。避難所まで遠い為、岐阜市と協議させて頂き、ホームを福祉避難所の指定を頂くことになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する研修は定期的に行っているが意図せずプライバシーを損ねるような状況が時々見られる為その場で指導を行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自分で選択できるような声かけを行って日常の意思決定を支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合になってしまっていることが時々見られる為、その人らしい一日が自然な形で過ごせるような過ごし方を考えている		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月調理スタッフが季節や地方料理を考えて提供している。ご入居者様も楽しみにして下さっている。また個別に嗜好品を購入している。机拭き、お盆・食器拭きなども手伝って頂いている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	血液検査の結果、体重等色々加味をし水分量の増加、プロテイン摂取、鉄卵の活用、チーズ・卵などのタンパク質追加などを行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアの介助を行っている。また定期的に歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に排泄状況は違う為、排泄のパターン等を情報共有している。自立の方はできるだけ長く自立で排泄できるように支援している。また失禁の方に有効な体操があり、実施している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤の使用や頭皮マッサージを行うと大変喜ばれる方がみえる為実施中である。臨機応変に入浴日の変更もしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるような声かけや、眠れない時はリビングでお話を傾聴し支援している。また不眠傾向の方に対して夕方に足浴を実施している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はユニット間で共有できるようにユニットで管理している。緊急で処方されたお薬については共有が遅れてしまう事がある為申し送りノート、朝礼夕礼時口頭でも申し送りを徹底している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみの創出の為、外出支援、レク等に力を入れている。また季節の食材を取りに行ったり、お花をいけたりしている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暑い日が続いているため、散歩できる時間は限られているが外に出る機会を設けている。その他ほたるの観賞や紅葉、桜、外でごはん、作品展、喫茶店など外へ出る機会を都度創出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品の居室内持ち込みは原則としてお断りしている。ホームや個別の買い物の際はご自身でお金を把握できる方についてはお願いしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に時間帯や頻度も確認しながら、なるべく望まれた時に連絡ができるように支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した空間を作るようにしている。また季節を感じる事の出来る花などをホームのあちこちに飾っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士のトラブルも度々見られる為状況に応じて座席の変更も随時行っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込む事によって安心した居住環境で過ごす事が出来る。また不要なものなどもご家族様へ相談し引き取って頂くかこちらで処分させて頂いている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の出来る事を必要な設備に関しては職員と相談し、安心して過ごせるように検討している。		